

しらおい再発見

地域学講座

1 社台地区



旧社台小学校

しらおいのまちを歩いてみませんか

2017年3月

民族共生象徴空間整備による
白老町活性化推進会議

1 社台地区

内 容 旧社台小から JR 社台駅、競走馬のふるさと案内所、稲荷神社ほかを歩きます。

ルート ①旧社台小学校・草刈運太郎墓碑 ⇒
②社台駅 ⇒
③競走馬のふるさと案内所胆振連絡所
(社台牧場) (インクラの滝) ⇒
④社台稲荷神社 (‘明治天皇駐蹕碑)

① 社台 (しゃたい・シャタイ・砂台・ジャダイ) の初見

【サ・タイ=浜辺・林=浜辺にある林】

* 「しゃたい是迄一里半計、川有 オカツフ持分、宮崎市左衛門商場、但まこない迄四カ所、家7～8軒」『津軽一統誌』寛文9(1669)年

・白老・勇払場所でイワシ漁が興される(安永年間1772～81年)

* 「ベツベツ有、勇武津白老境なり、一同川端小休家あり、白老場所也 一シャタイ夷家6～7軒、鮭漁場也」『西蝦夷日誌』文化4(1807)年

* 「砂台 一番屋1カ所但萱家、桁行4間、梁間3間、御通行御役人様其外小屋休所、一 蝦夷家、数9軒此人数48人内男23人女25人内乙名役2人小使役無之」『東蝦夷地各場所様子大概書』文化6(1809)年

・場所支配人は南部治兵衛

* 「ジャダイ川有巾5間余、小休所有、(中略)川ノ向ニ夷人小屋2～3軒、又浜ニ翹小屋有、(中略) 行コト12～13丁ニシテベツベツ此処白ライ・ユウフツ境也」『初航蝦夷日誌』弘化2(1845)年

・明治までの200年間は漁場主による出稼ぎ経営。地引網によるサケとイワシ漁が主。

* 場所請負人野口屋又蔵の漁場開拓により南部領から千石熊吉（天保3（1831）年生）が移住。相木林蔵（天保10（1838）年生）も鹿部村からイワシ漁の漁期に来住し漁場主として地引網を自営。また、馬飼も行う。相木家の先祖は甲斐国武田家配下。相次いで石川丑松、伝藤熊吉らも移住。

* 白老領代官草刈運太郎（仙台藩士）の自刃（慶応4（1868）年8月25日）

* 明治2（1869）年、蝦夷地を北海道と改め開拓使設置。11国86郡が置かれ「胆振国白老郡」の名称確定。同6年には函館・室蘭・札幌を結ぶ札幌新道（現国道）が完成し、同9（1876）年、北海道大小区画の設置により30大区166小区に分割され「社台村」「白老村」「敷生村」が成立。この頃、電灯点る。

* 同13（1880）年、白老に白老郡各村戸長役場が置かれ、この時の社台の人口は17戸67人（白老郡総数は164戸696人）。また、開拓使勸業課調べによる社台村の諸物産として「織物類アツシ売上4反、椎茸7貫。牧畜馬192頭、家禽鶏26、獣捕獲数鹿65、獺4、狐20、オットセイ7」という記録あり。また同年、突如発生したバツタの大群が十勝方面より襲来し、ヨコストでの駆除の様子が描かれる。

② 旧社台小学校 平成2（1990）年～平成28（2016）年3月

* 明治27（1894）年1月、公立社台簡易小学校として創立。翌28年、社台尋常小学校と改称し、社台国民学校・社台小学校へと校名を変更しながら、昭和29（1954）年、開校60周年の際現在地に移転。現校舎は平成3年に牧舎風に新築。しかし児童数の減少は止らず、平成27年度（児童数32人）をもって白老小に統合し121年の校史に幕を閉じた。卒業生は延べ1,169人。なお、在校生の最高は昭和30年の204人。人口も同年245世帯1,262人がピーク。

* 社台小の前身は明治25（1892）年、工藤卯太郎の尽力で石川丑松の一室を借上げ、私設教習所を開設したもの。仙台の近藤武雄を教員に委託し児童9人の教育にあたった。同27年工費260円で27.5坪の校舎を新築し公立社台簡易小学校の認可をとる。

③ 草刈運太郎（仙台藩最後の代官）

* 白老領4代目の代官。慶応4（1868）年7月、幕府が倒れ朝廷軍（官軍）が白老に攻めて来た時、陣屋の藩士たちは仙台藩に戻ったが、民政責任者の運太郎は7～8人の家来とともに残留。兵たちが白老陣屋の什器を取り壊し始めると運太郎は必死で抵抗したものの、腹を立てた一人の兵が切りつけた。



刀傷を負った運太郎は社台まで逃れ網元の相木林蔵の番屋に匿われた。林蔵は懸命に看病するも悪くなる一方で、ある日、目を離した際にその姿は見えなくなっていた。前浜を探すと、そこには仙台の方角を見て切腹し果てた姿があった。49歳の生涯であった。運太郎は最後まで責任者としての自らの役目を果たした尊い人物として今でも白老の人たちに愛されている。

④ 社台駅

* 明治6（1873）年、札幌から室蘭までの札幌本道開通。

* 明治25（1892）年、鉄道開通し駅置かれ人口急増（13年696人、25年1,057人、40年3,131人）。

* 明治42（1909）年、社台駅に貨物取扱が開始され駅前地区に人家が増え始める（それまでは稻荷神社から浜の方に民家が集中）。駅は木材や木炭の搬出で栄える。

* 昭和9（1934）年、社台郵便局が設置。同53（1978）年、郵便局が現在地に移転新築した。

* 林業は明治中期頃から製材事業が盛んに行われ、加藤長八・塚見滝蔵・蛭名銀太郎・小西久太郎・佐藤喜代治・千石仁平・村上猪之吉らと、造材業では林毅・林武雄らが起業。

* 昭和61年、社台駅は無人駅となる。

⑤ 社台の馬 競走馬のふるさと胆振案内所の馬頭観音

* 社台の馬のルーツは幕末の仙台陣屋まで遡る。

* 競走馬のふるさと案内所連絡所は全国6カ所に設置され、馬産地の軽種馬情報をはじめ地域情報の収集発信とともに、牧場見学に関する質問や照会等を行っている。近年の社台産馬としては、2011年に3冠を制したオルフェーブルや2015年の優秀表彰馬ショウナンパンドラー等が著名。併設する(公益社団法人)日本軽種馬協会胆振種馬場では引退馬による繁殖が行われており、インターメゾ・クリスタルパレス・テイエムオペラオウなどの種牡馬が在籍している。

* 案内所北側には大きな馬頭観世音像が祭られているが、町内には20基の馬頭観音が確認されている。顔が三面で四組八本の腕、憤怒の異形で正面前頭部に馬頭を頂く。馬が汚れた水を飲み干し雑草を食べ尽すように衆生(この世に生を受けた者)を煩惱から救ってくれるという観音信仰と結びついた。馬頭を頂く姿から、江戸期以降馬の守護神として生産者や使役する人たちに「馬頭さん」と親しまれ信仰が広がった。

⑥ 社台牧場

* 明治20(1887)年、宮城県白石から幌別に入植した片倉主従(添田達吉・日野久橋・泉麟太郎ら)が社台村に牧場地100万坪(330ha)の貸与を受け馬匹の改良と繁殖に努めたが失敗し、同26年解散。

* 明治31(1898)年、磯嘉伊助・田宮善次郎・安藤源五郎・柴田長道・武富平作ら道内外の資本家が共同で社台村に牧場地の貸付申請を行い、10年計画で牧柵・厩舎・農地・道路などを整備し、下付を受けた。当時の名称は白老牧場で、同41年には472万坪の土地に300頭のサラブレッドを飼育し品種改良を行った。この当時、郡内には大小28の牧場が名を連ねている。

* 大正7(1918)年、白老牧場は所有権を移転し、徳川慶久(最後の将軍徳川慶喜の家督を継いだ7男)に所有権が移され、大正10年より昭和4年まで多羅尾光男が管理人を行っていた。牧場は徳川牧場と呼ばれ、昭和3年8月3日には慶久の2女、後の高松宮妃殿下となる徳川喜久子姫が視察に訪れている。

* 昭和5年、徳川牧場は札幌月寒で牛の牧場を運営していた吉田善助の所有とな

り、同9年に吉田合名会社の法人組織とし、6棟の厩舎で180頭の競争馬・軍馬の飼育管理を行い、繁殖に努めた。この頃の牧場は、千葉と新冠の「御料牧場」に岩手の「小岩井牧場」、白老の「吉田牧場」が日本の三大牧場として名を馳せるなど、吉田牧場の全盛期。

*昭和9年、吉田善助が徳川牧場を買収し、本格的に競走馬の生産に着手。当時馬産を行っていた者には相木林蔵・千石仁平・久末久作・蛭名長太郎・沢口初三郎らがいる。

*昭和20年、善助から善一、(22年に社台駅裏に分家して習志野牧場を経営)、45年から善伍へと引き継がれ、47年に社名変更して合名会社社台牧場となる。

*このほか社台においては白老ファームが広く軽種馬の生産を行っている(藤井農場・岩崎和夫・五十嵐藤夫らの軽種馬生産もあった)。また、相木久紀が道産子の生産に取り組んでいる。

*ノーザンホースパークと吉田家

- ・1955年 吉田善哉が「千葉社台牧場」を千葉県に設立。父善助の社台牧場より独立。
- ・1958年 白老町に「千葉社台牧場社台支場」を設立。
- ・1962年 種牡馬ガーサント導入し「千葉社台牧場」を「社台ファーム千葉」に、「千葉社台牧場社台支場」を「社台ファーム白老」にそれぞれ改称。
- ・1994年 分割により「社台ファーム」・「ノーザンファーム」・「白老ファーム」に再編。
- ・白老ファームは、吉田照哉・吉田勝己・吉田晴哉の三兄弟による共同経営。

⑦ インクラの滝 (インクライン=引駆ライン)

*白老郡は千歳郡に次ぐ森林の宝庫で、標高200~540mの大森林地帯である社台台地がある。

*道内最初の施設となったインクラインは、急峻な傾斜地



をトロッコで運搬する集材用軌道装置で、原木を積んだトロッコの降りる力を利用して、ワイヤーロープに連結された空車を引き上げる仕組み。切り出した木材を運ぶこの装置は昭和11(1936)年から8年間使用された。工事延長は200m。

* インクラインの設置によって、別々の滝(H44m、W10m)はインクラの滝と呼ばれるようになり、設備廃止後もそのままインクラの滝として平成2年、自然環境や景観が優れた「日本の滝百選」に選ばれた。

⑧ 社台稻荷神社 (呑香社 : トコウシャ)

* 創建は明治13(1880)年。白老八幡神社に次ぐ137年の歴史あり。

・ 昭和47年社殿改築。

* 例祭日 毎年9月第4土・日曜日

⑨ 明治天皇駐蹕碑 (大正11(1922)年7月建立)

* 明治14(1881)年9月3日、明治天皇巡幸の際社台川右岸で小憩。相木林蔵が野馬追披露。また300頭の放牧をご覧になる。相木林蔵に短刀1振、石川丑松に2円を下賜。その夜白老駅通所に宿泊。駐蹕碑は全町に3基ある(ほかには日本製紙構内と虎杖浜神社境内)。

⑩ 社台あれこれ

* 明治25(1892)年に岩見沢室蘭間に北海道炭砒鉄道株により鉄道が開通し白老駅が開駅。この鉄道線路敷設工事に働きに来た人たちに中出初三郎、佐藤庄治らがいた。また、工藤卯太郎(漁業)、中村長松(船大工)、田畑熊吉(漁場帳場)とともに黒田富士吉、古俣甚之助、古俣惣太郎らが入村し、相木、中出、佐藤、工藤らとともに漁業に従事した。同30年代からの主な入村者は塚見寛治(商業・薪炭業)、堀川忠蔵(農業)、加藤長八(商業・薪炭業)、久保田仙治(商業)。

* 明治42(1909)年3月30日7時30分、樽前山(1,041m)が大噴火しドーム形成。

*大正8(1919)年4月1日、白老村に2級町村制が施行され、白老・敷生・社台の3村が合併して白老村となる。翌9年電灯点る。

*昭和29(1954)年、白老村は町制を施行し、2月に小学校が現在地に新築。

*昭和35(1960)年、国道が全面舗装

*昭和44(1969)年、ヨコスト地区で温泉付宅地分譲開始。

	社台の戸数人口	白老の人口
明治13(1880)年		696人
明治25(1892)年	34戸183人	1,057人
明治38(1905)年	43戸217人	3,131人
明治44(1911)年	75戸295人	
大正8(1919)年	79戸393人	4,906人
昭和22(1947)年	207戸1,100人	9,159人



社台1遺跡では続縄文文化期の朱塗土器・勾玉副葬品など出土



旧社台小学校



「雨ニモマケズ」碑





草刈運太郎墓碑





J R社台駅



馬頭観音碑 延命地藏尊



競走馬のふるさと案内所



馬頭観音碑





社台牧場



馬頭観音碑（社台牧場）



白老ファーム



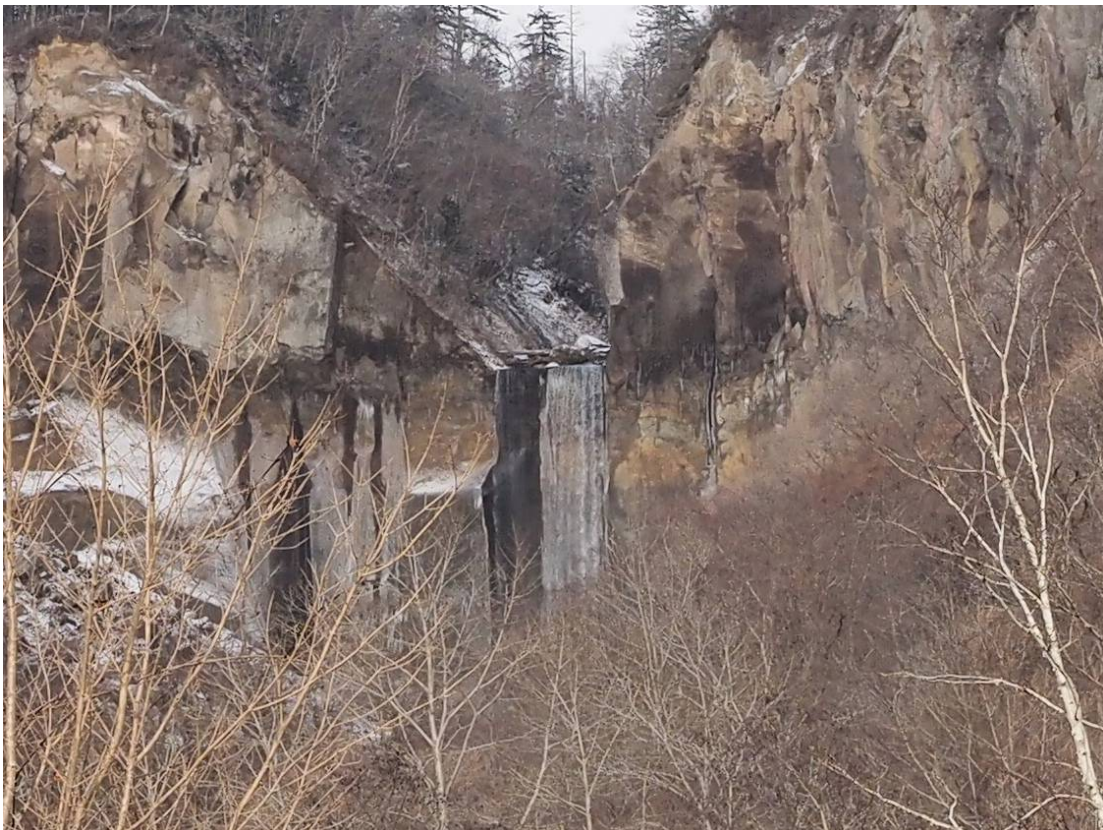


明治天皇駐蹕碑





社台稲荷神社



インクラの滝（別々の滝 日本の滝百選）

編集 民族共生象徴空間整備による白老町活性化推進会議

監修 白老町教育委員会生涯学習課

問合先 仙台藩白老元陣屋資料館 TEL0144-85-2666